

一般口演（多領域専門職部門）

一般口演（多領域専門職部門）1

周産期・育児・心理社会支援

座長:権守 礼美 (神奈川県立こども医療センター)

Fri. Jul 17, 2015 9:00 AM - 9:45 AM 第7会場 (1F シリウス)

II-TRO-01~II-TRO-05

所属正式名称: 権守礼美(神奈川県立こども医療センター)

[II-TRO-01]胎児コンサルジュシステムを導入して得られた効果～医療者側の視点から～

○森 昌乃, 中川 晴美 (中京病院中京こどもハートセンターNICCU)

Keywords:胎児心エコー, 胎児コンサルジュ, 看護師

【背景】今日、患者満足度向上の為に、医療コンサルジュの導入を推進する病院が増えている。その役割は多岐に渡り、現在では、より専門性を持ったコンサルジュの導入も増えている。当院の新生児心臓治療室（以下NICCUとする）では、胎児が先天性心疾患と診断された妊婦に対し、胎児心エコーに立ち会い、妊婦や家族に必要なケアを行ってきた。それを行う看護師を胎児コンサルジュと称し、このシステムを胎児コンサルジュシステムと名付けた。胎児コンサルジュは、経験年数や重症患者の受け持ち経験の有無などを考慮し、より緻密なケアのできる看護師が行っている。以前の研究で、このシステムの対象となった家族からは、不安の軽減などの効果が得られたことを知ることができた。今回、胎児コンサルジュシステムの医療者側への効果を検証したいと考えた。【目的】胎児コンサルジュシステムの医療者側へ及ぼす効果を知る。【方法】胎児エコーを行う医師3名へ聞き取り調査及び胎児コンサルジュ8名へ質問紙調査を行った。【結果・考察】医師および胎児コンサルジュ全員が、予め情報をスタッフ全員で共有でき、看護がスムーズに導入できたと回答した。更に、病態説明後に家族の理解度や反応を把握することで、その後の説明方法を工夫できるという意見もあった。胎児コンサルジュシステムは、妊婦や家族に対し、より親切な対応と医療者間の連携を円滑にする効果が得られたと考える。また、多くの胎児コンサルジュが、家族の心のケアや疾患について更なる学習の必要性を感じたと回答した。胎児コンサルジュの役割をすることで、強い責任感を持つことができ、学習意欲やモチベーションの向上に繋がっているのではないかと考える。